

図書館だより

2024.4.1 No.28

図書館建築

家政学科 砂本 文彦

私は研究テーマの関係上、国内外の図書館によく行きます。それは一般書架にある書籍を閲覧しに行くというよりも、その図書館にしか所蔵されていない一点物の地域資料をわざわざ見に行くのです。手にする資料はマイクロフィルム化された地方紙新聞や破損注意のヨレヨレの書籍で、コピー機で複写もできないのでデジタルカメラで撮影して帰ります。こうした作業ができる場所は図書館のだいたい一番奥にあり、そのお陰もあって図書館の奥深くまで利用することができました。私の専門は建築ですので思い返せば色々なカタチの図書館があることも知れ、ここで少し紹介してみましょう。

まず図書と触れやすい例としては和歌山市民図書館があります。1階フロアの真ん中に某有名珈琲店があり、その周囲に某書店が棚をならべて2階以上がいわゆる図書館ですが、双方に書架やディスプレイ上の差異はなく、書店と図書館の境界を曖昧にしています。魅力的に作り込まれたカフェ・書店を巡る感覚で図書館まで歩かせる仕掛けです。最近では図書を借りる人も買う人も減少していますので、ひとつの協業形態と言えるでしょう。

ひたすら素敵なのは岐阜市立中央図書館<みんなの森 ぎふメディアコスモス>です。これは画像検索をしてもらおうと早いのですが、檜材の曲面天井とそこから吊り下がる巨大な「グローブ」が閲覧室空間を特徴づけていて、さらに各所に様々な座席が用意されています。そこに図書館のイメージはありません。手に取った書籍内容に合わせて「グローブ下の藤の椅子にもたれて読みたい」「友達と感想を話しながら読みたい」といった来訪者の閲覧行動を誘発する空間があり、思い思いに書籍に触れる人々がいることで風景が完成する図書館です。

最後に(公財)日本交通公社が運営する旅の図書館です。日本には特定テーマの収蔵をする専門図書館が結構あり、ここは旅です。旅にかかるテーマならほとんどの事がわかります。書架のすぐそばの閲覧室内で時々色々な講演セミナーが開かれていて、講演を聞きに来た人がついでに図書に触れ、たまたま図書を求めてきた人が講演に耳を傾ける。ここは静かにする閲覧室ではなく、アクティビティと図書が一体化するデザインがなされています。

図書館建築は挑戦しています。図書を求めて様々な場所に訪れ、そこで思わぬ感動を受けています。

先生とブックトーク



国際教養学科

吉岡 志津世 先生

管理栄養士養成課程

竹市 仁美 先生

子どもの頃に読んだ本の中で印象に残っている本を教えてください。

吉岡先生 小学校の図書室が私の本棚で、少年少女世界文学全集（講談社）は読み漁ったものでしたが、ここでは「赤ずきんちゃん」を挙げます。ペロー版、グリム版がありますが、もとは民間伝承ですが、後年、赤ずきん話の採録の仕方・描かれ方にフェミニズム視点からなど多様な読みがあることを知り印象深い作品となりました。

竹市先生 「赤毛のアン」です。境遇に負けず試行錯誤しながら日々の出来事乗り越えるアンの姿に、勇気に似た気持ちももらっていました。アンが紡ぐ美しい風景のある島へいつか行きたいと思いながら数十年が経ちました。

大学時代に読んだ本の中で印象に残っている本を教えてください。

吉岡先生 リチャード・ライト『アメリカの息子』(Native Son)です。主人公黒人青年ピギーが空飛ぶ飛行機を見上げながら黒人であるがゆえにパイロットの夢を抱くことさえ許されず、彼の身を焦がすような怒りと絶望感、それを引き受ける悲劇的結末は、当時大学2年生の私には圧倒的で、研究の道に進むきっかけとなった作品でした。

竹市先生 「不思議の国のエリコ」です。当時、化学や人体の基礎を勉強する私にとって、異なる可能性を感じさせてくれる1冊でした。独特な世界感のエッセイですが、目の前の暗記などに疲れそうな時には自然界を楽しむことを思い出させてくれました。

現在の学生に、ぜひ読んでほしい本を1冊紹介してください。

吉岡先生 1冊だけ紹介するのはもったいなく、たとえば、文学部が推薦する100冊はいかがでしょう。「タイパ」重視の風潮がありますが、少なくとも学生時代には、多彩な本の世界にじっくり向き合う時間を大切にしてほしいですね。またその時間も十分あるでしょう。良書との出会いは複眼的な視点、想像力と共感力の栄養源です。

竹市先生 「置かれた場所で咲きなさい」渡辺和子（幻冬舎文庫）時代の流れや置かれた環境は、自分ではどうすることもできない場合があります。でも、そのような時にも、日々を大切に生きていく姿勢は、どんなに時代が変わっても同じなのだろうと思います。今の不穏な時代だからこそ、お勧めします。

今までに見た映画・テレビドラマの中で、一番印象に残っているものを教えてください。

吉岡先生 『砂の器』（1974）です。松本清張原作の映画化ですが、脚本が秀逸です。ストーリーは犯人追跡の刑事ものですが、犯人の若き音楽家作曲『宿命』の荘厳にして哀切の曲調と幼い頃の父子彷徨の旅の映像美が見事に融合されて、ハンセン病問題、排斥と貧困、それに抗う人間の業ともいえる生き様は圧巻でした。

竹市先生 なぜだかわかりませんが、忘れられない一作は「ギルバート・グレイブ」という映画です。数十年前の作品ですが、アメリカを、そして格差社会での生き様を描いています。今では有名な豪華俳優も出ていますので、お楽しみに。

先生の「理想の図書館像」を教えてください。

吉岡先生 かつて調査で訪れたアメリカ議会図書館(Library of Congress)は瀟灑な建物に高い天井までの書架に一次資料が収められ、やはり原書を手取る感動は格別でした。まさに時空を超えた知の殿堂。現在ではユネスコと共同でオンライン図書館「World Digital Library」も開設していて誰でもアクセスできます。大学図書館としては、レファレンスサービスの充実を求めたいですね。

竹市先生 静かで落ち着ける空間に加え、光が差す森の中、開放的な海の家。その日の気分で日常から逃避できる場所。やる気が漲るときも、疲れて自分を見つめたいときも立ち寄りたくなるような図書館があればいいと思います。

館長からのメッセージ

史学科 川森 博司

大学は「学びの場」であり、授業を受けることはその一部です。「学びの場」を構成する大きな要素が図書館であり、多くの本を所蔵する情報提供の場でもあります。図書館という空間自体が「学びのスペース」です。ぜひ授業の合間などに図書館に身をひたしてください。すぐれた本の背表紙からは無言のパワーが伝わってくるはず。そう、図書館はパワースポットなのです。世界中の先人の知に囲まれて過ごす時間を持つこと、それがあなたを大きく成長させます。図書館で「脱スマホ」の時間を持ちましょう。スクリーンタイムを紙の本の読書に置き換えましょう。そこには、きっと頭がスッキリして爽やかな時間が待っています。それは自分自身の時間を取り戻す重要な機会でもあるのです。

図書館活動報告

2023年

- 4月～7月 教員推薦図書「歴史学・民俗学の醍醐味」
- 4月～9月 常設展示「しかけ絵本」
- 5月 図書館ボランティア活動開始
- 6月 電子書籍を読んでみませんか？
図書館からの情報発信【X】開設
 OPCにてワークショップ開催
- 7月 セタのお薦め図書（おみくじ企画）
選書ツアー開催
- 8月～9月 OPCにてワークショップ開催
 大学のお気に入りの場所で読みたい本
 ハロウィンに読みたい本
- 10月 教員推薦図書「さまざまな視点から音楽に
関わろう」
- 10月～1月 常設展示「文字遺産集成」
- 12月 クリスマスに読みたい（葉プレゼント）
 OPCにてワークショップ開催

2024年

- 1月 福袋（おみくじ企画）
 ビリオバトル大会開催（ビリオ部コラボ企画）
- 2月～3月 新しい生活や新しい環境で読みたい本
 OPCにてワークショップ開催

ボランティア活動

図書館ボランティア学生からの一言

P.N. 雲

図書館ボランティアを始めて2年目になり1年目よりスムーズに活動が出来ました。ポスターを作るのが楽しかったです。

P.N. おもち

オープンキャンパスでの図書館案内とワークショップでは、高校生や保護者の方とお話でき、活動の中でも特に印象に残っています。

P.N. キリカ

皆さんにとってより良い図書館になるよう、いろいろと考えながら作業ができて、やりがいを感じました。楽しかったです。

P.N. つっきー

2年間の活動で、自分のやりたいことの表現方法を見つけることができ、どんどん活動が楽しくなりました。

P.N. だんご

POP作りやオープンキャンパスのお手伝いなど試行錯誤しながら活動に参加できて楽しかったです。

P.N. いちごオレ

日々の図書の配架作業に加え、月毎のpop展示など一年前は細々と活動していた図書館ボランティアですが、コロナの緩和により、オープンキャンパスのお手伝いやおみくじの配布など外と関わる機会が増えとても充実した一年でした。

P.N. RIHO

自分たちで意見を出しながら4年間様々な活動を行うことができ、とても勉強になりました。本当に楽しかったです。

P.N. スギト

図書館ボランティアに初めて参加し、POP作成や配架調整、選書等の貴重な体験をすることができました。

P.N. しま

ボランティア活動は実に楽しいものでした。手先が器用でない私ですが、たくさん経験を経て自分で何かを一から作ることが楽しくなりました。本や創作が好きな方はもちろん充実した活動ができると自信をもって言えます。ありがとうございました。

P.N. しゃんめい

ポップを作ったり、とても大きなクリスマスツリーの飾りつけなど普段ではしないようなことを経験できて自分の人生が豊かになった気がした。

P.N. みるく

季節にあった本の選書やPOP制作などに参加することで、より図書館を身近に感じる事ができました。

P.N. じる

図書館ボランティアとして活動した中で、特に本のポップ作りが1番楽しかったです。自分でどのように魅力的に見えるかを考えデザインした後、ポップを書いた本が貸出中になるととてもやりがいを感じました。2回生からもボランティアに励み、図書館を盛り上げていきたいです。

P.N. わたこ

本を読んでもらう為、魅力を伝える為にPOPを試行錯誤しながら書いたり、オープンキャンパスで訪れた学生さんに話をしたり、楽しかったです。

P.N. あんず

POP作りや季節の展示の準備などやる事が盛りだくさんで、充実した時間を過ごすことができました。

P.N. CRyuki

図書館ボランティアをしていることで、将来の夢である司書に近づいている気がします。活動も実際にみんなに本を手にとってもらえるのでやりがいを感じます。

P.N. 麦わら猫

普段経験することが出来ない配架などが経験ができて勉強になります。自分がPOPを作った本が貸出されていると嬉しくなります。

P.N. なぎ

半年ぶりにボランティアをしました。お正月やクリスマスなどたくさんの行事で図書館を盛り上げるお手伝いができて楽しかったです。



読書マラソン2023年度感想文受賞者

- 👑 **最優秀賞** ミカンさん
- 優秀賞** ちゅんさん
- 優秀賞** だんごむしさん
- 奨励賞** ニャンプーさん
- 奨励賞** キリカさん

最優秀賞受賞者 ミカンさんの感想

今回は最優秀賞という名誉な賞をいただき、心からありがたく思っています。私自身、特別「読書をするのが好き」というわけではありませんでしたが、本から得られるさまざまな感性や知識、言葉に込められた想いに魅了され、いつのまにか90冊あまりの本を読んでいました。本を読むことを苦手とする人も多いと思いますが、本の中には一人一人の価値観や感性にあった一冊がきっとあると思います。そういった本はあなたの人生になにか意味のあるものを与えてくれるのではないかと思います。なので、是非神戸女子大学の図書館に足を運び、あなたにあった一冊を見つけてみてください。

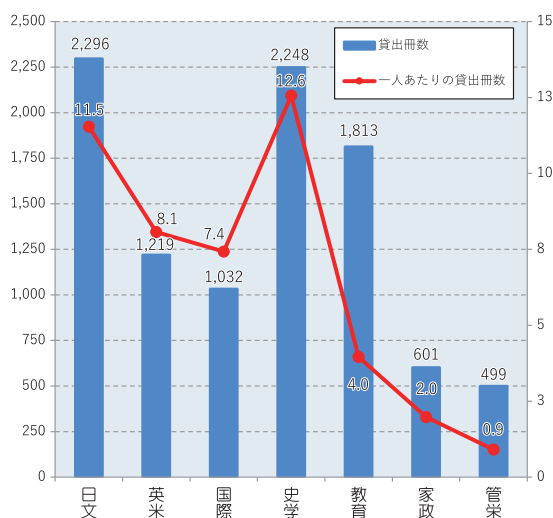
2023年度 学科別ベストリーダー

各学科で一番読まれた図書はこれ！！

(2023年4月～2024年2月)

学科	タイトル	著者	配架場所	請求記号
日文	新日本言語地図：分布図で見渡す方言の世界	大西拓一郎編；新井小枝子 [ほか] 著	須磨 3階P12	818/Oo
英米	The picture in the attic (Page turners ; Headwords levels 6)	Richard MacAndrew, Cathy Lawday	須磨 2階多読コーナー	930.8/Pa/6
	The secret beach (Page turners ; Headwords levels 5)	Jane Rollason	須磨 2階多読コーナー	930.8/Pa/5
国際	消された裁き：NHK番組改変と政治介入事件	VAWW-Netジャパン編；西野瑠美子, 金富子責任編集	須磨 3階M8	699.21/Va
史学	暮らしと年中行事 (宮田登日本を語る；5)	宮田登著	須磨 3階M16	380.8/Mi/5
教育	がたんごとんがたんごとん (福音館あかちゃんの絵本)	安西水丸さく	須磨 2階絵本 他	726.5/An
	子どもの貧困調査：子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの	山野則子編著	須磨 3階M21 他	369.4/Ya
家政	チャンネルの戦略：究極のラグジュアリーブランドに見る技術経営	長沢伸也編著；杉本香七著	須磨 3階M9	589.2/Na
管栄	内定者はこう書いた！エントリーシート履歴書・志望動機自己PR【完全版】；[25年度版]	坂本直文著	須磨 2階就活コーナー	377.9/Sa

2023年度 貸出統計 (2023年4月～2024年2月)



図書館ホームページとOPAC(蔵書検索)の紹介

- 図書館ホームページには、図書館の行事案内や利用案内、開館カレンダーなど、図書館を利用する際に役立つさまざまな情報が載っています。
- 資料の予約や購入依頼、また貸出中の本の期限の更新も行えます。
- OPAC(蔵書検索)は図書館にある資料を検索する時に使います。読みたい本が図書館にあるのかどうか、どの場所にあるのかがわかります。
- 電子ジャーナルや「朝日新聞クロスサーチ」などのデータベースをご利用できます。

スマートフォン用
OPAC



<http://lib.yg.kobe-wu.ac.jp/>に
アクセスしてください。

編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されて初めての春がやってきました。須磨キャンパスの桜はいかがですか？昨年は学生から図書館が1番学内で過ごしやすい場所と推薦いただいたり外部の方から図書館ボランティア活動を高く評価していただいたりと図書館として日頃の地道な活動が報われた嬉しい1年となりました。学生の皆さんに寄り添える図書館を目指して今年度もさらに努力したいと思います。発行にあたり、原稿をお寄せくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

図書館だより(須磨キャンパス図書館報) 第28号

発行日 2024年4月1日
 編集・発行 神戸女子大学・神戸女子短期大学 須磨キャンパス図書館
 〒654-8585 神戸市須磨区東須磨青山2-1
 TEL: 078-737-2326(直)
URL: <http://lib.yg.kobe-wu.ac.jp/>
 (神戸女子大学・神戸女子短期大学 須磨キャンパス図書館ホームページ)